

中学生が自衛隊の仕事を体験

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）浜松出張所は、11月9日（木）と10日（金）の2日間、浜松市立東部中学校の2年生11人に対する職場体験学習を支援した。

同学習は「事業所での体験を通して職業に対する関心を高め、自分の将来の進路や適性について考え、職場での態度や人との接し方、マナー、公衆道徳を実践的に学ぶ」ことを目的として行われた。

今回は、1日目に陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）、2日目に航空自衛隊浜松広報館（浜松市）及び静岡地本浜松出張所（浜松市）で職場体験を実施した。

2日間とも天候に恵まれ、初日は豊川駐屯地において駐屯地の概要や陸上自衛隊の任務、役割について説明を受けるとともに、隊員食堂で実際に隊員が食べている食事と同じものを体験喫食した。

2日目は、航空自衛隊浜松広報館で航空自衛隊の概要や各種航空機などについて学習し、浜松出張所では陸・海・空各自衛隊についてそれぞれの特徴や任務の違いについて説明を受けた。その後、レンジャー資格を有する同所・石原聖和2等陸曹の指導によるロープワークを体験し、生徒らは慣れないロープの扱いに頭を悩ませながら奮闘していた。

体験学習終了後、生徒からは「自衛隊の職種が陸・海・空の中にたくさんあることを知って驚いた」「ロープの結び方を教わり、最初はうまく結べなかったが何度も練習してやっと結べた時は嬉しかった」などさまざまな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような機会を通じて学校との関係を深めるとともに、多くの学生や若者に実際の自衛隊を見たり触れてもらい、この職業の魅力を伝えていく。



浜松西高等学校で職業講話を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月16日（木）、静岡県立浜松西高等学校（浜松市）において「保護者及び地域の方々との語る会」に参加した。

同校はノーベル物理学賞を受賞した天野博名古屋大学大学院教授を輩出した伝統校として知られ、この会は同校の1年生を対象にしたキャリア教育の一環で毎年行われている。今回は自衛隊が初めて参加したほか、医師、税理士、建築家などさまざまな職種の講師10人が参加した。

同会は事前の聴講希望調査により、生徒が聴講したい講師を一人選び、講義を選択する形式で行われたが、定員の25人を上回る生徒が自衛隊を第1希望としており、関心の高さがうかがえた。

講師として参加した浜松出張所の氏家孝之空曹長は「平和を仕事にする」をテーマに、自衛隊の任務などを説明したのち、自身が経験した北朝鮮弾道ミサイル対処、東日本大震災に係る災害派遣、コロナ高原派遣輸送隊としての国連平和維持活動などについて体験談等を話し、平和を維持する自衛隊の任務のやりがいや重要性を語った。

生徒は真剣な面持ちで話を傾け、「自衛隊の任務を詳しく知ることができてよかった」「平和を仕事にする」というタイトルの意味がよく理解できた」と感想を話していた。

静岡地本は、今後もこのような機会を積極的に活用し、学生たちに自衛隊という職業の魅力を伝え、隊員確保に全力で取り組んでいく。

